

咲き誇る、江戸の美意識。

100th Anniversary of the Tokyo Metropolitan Art Museum

東京都美術館開館100周年記念

大英博物館
日本美術コレクション

百花

海を越えた江戸絵画

繚乱

Edo in Focus

Japanese Treasures from the British Museum

2026

7.25^土~10.18^日



東京都美術館
TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM

東京
上野公園

開室時間 | 午前9時30分~午後5時30分、金曜日は午後8時まで(入室は閉室の30分前まで)

休室日 | 月曜日、10月13日(火) ※ただし8月10日(月)、9月21日(月・祝)と10月12日(月・祝)は開室

主催 | 東京都美術館(公益財団法人東京都歴史文化財団)、大英博物館、朝日新聞社、NHK、NHKプロモーション 後援 | ブリティッシュ・カウンシル 協賛 | 光村印刷

左下から時計回り 円山応挙《虎図》(部分) 1775年 / 円山応挙《花鳥図》(部分) 1764-1772年 / 河鍋晩斎《鳥獣戯画 鼠奥く瓜に果る猫》(部分) 1879年 / 歌川国芳《相馬の古内裏》(部分) 1844年頃 / 喜多川歌麿《文談む遊女》(部分) 1805-1806年 / 葛飾北斎《富嶽三十六景 神奈川沖浪裏》(部分) 1831年 すべて大英博物館蔵 © The Trustees of the British Museum 2026

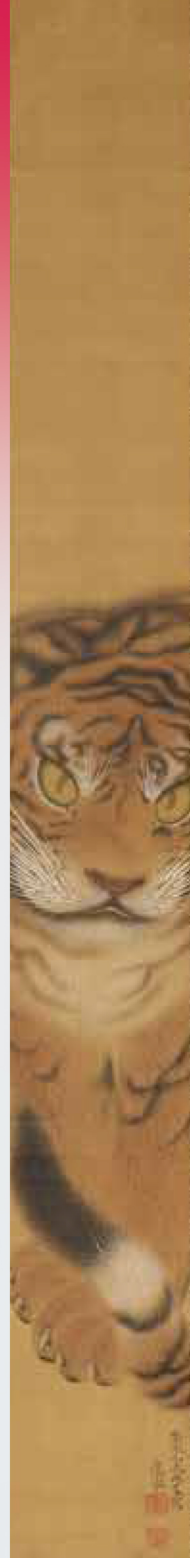
The British
Museum



100th Anniversary



応挙、北斎、歌麿：
世界を魅了した傑作、大集結！



Edo in Focus

Japanese Treasures from the British Museum



河鍋晩斎《鳥獣戯画 鼠曳く瓜に乗る猫》1879年

1753年に開館した大英博物館は、世界を代表するミュージアムのひとつです。同館の日本美術コレクションは、海外では最も包括的と評されるほど量・質ともに充実しています。そのコレクション形成を支えてきたのは、ジャポニズムが流行した19世紀末以来、海を隔てた異国の地・日本の文化に魅了された人々でした。外科医ウィリアム・アンダーソン(1842~1900)をはじめ、数々の収集家や学芸員が大英博物館と関わり、活躍しました。彼らが築いたつながりは、国境や時代を越えて広がり、今日まで受け継がれています。

本展では、4万点に及ぶ同館の日本美術コレクションから、江戸時代の屏風、掛軸、絵巻の絵画作品と、歌麿、写楽、北斎、広重など代表的な8人の浮世絵師による版画を中心に、優れた作品を厳選してご紹介いたします。さらに、近年の調査成果や収集の背景にも光をあてることで同館が日本美術の収集・研究・保存の第一線で果たしてきた役割をたどります。それは、国際的な文化交流の歴史を振り返ると同時に、大英博物館に受け継がれてきた日本美術の名品と、今日を生きる私たちとのあいだに新たな対話をひらく機会ともなるでしょう。

円山応挙《虎図》1775年



歌川国芳《相馬の古内裏》1844年頃



葛飾北斎《富嶽三十六景 神奈川沖浪裏》1831年



東京都美術館
TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM

展覧会公式サイト | <https://daiei-ten2026.exhibit.jp> お問合せ | 050-5541-8600
(ハローダイヤル)

※展覧会の詳細については、諸事情により変更する場合がありますので、最新情報は展覧会公式サイトでご確認ください。

〒110-0007 東京都台東区上野公園8-36 ○JR上野駅「公園改札」より徒歩7分 ○東京メトロ銀座線・日比谷線上野駅「7番出口」より徒歩10分 ○京成電鉄京成上野駅より徒歩10分